

十勝川中流部市民協働会議_活動記録（10）

十勝川相生中島上流湿地（夏期）魚類等調査の支援活動

平成 24 年に十勝川相生中島地区 右岸上流部において、河道掘削後の樹林化対策として新たな湿地環境づくりを目的として掘削された水域を、翌年の平成 25 年から帯広農業高等学校の農業クラブ十勝川中流部川づくり班が現地調査・湿地環境づくりのための調査を行い、平成 26 年秋から環境調査（魚類全量推定）を行っています。

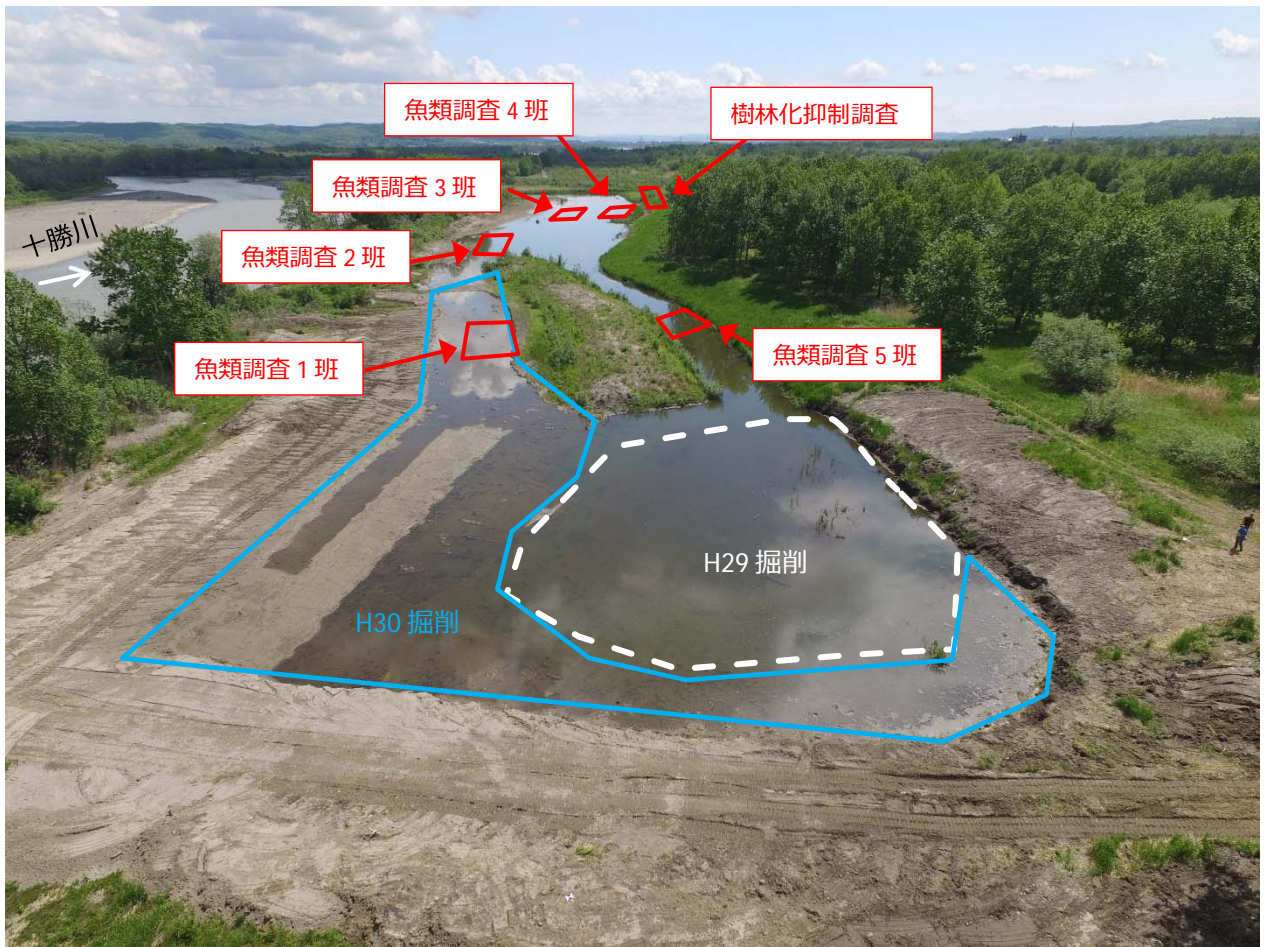
平成 28 年には十勝川流域において大洪水が発生し、この湿地環境においても大量の土砂で覆いつくされました。平成 29 年と今年春先（H30.5）に水域環境・湧水の増大を図るためバックホウで掘削作業を行ってから初めての調査・活動支援になります。

- 日 時：平成 30 年 7 月 31 日（火） AM 8：00～PM12：30
- 参加者：帯広農業高等学校 農業クラブ十勝川中流部川づくり班 12 名（1～3 年生）
十勝川中流部市民協働会議事務局 5 名
河川管理者 帯広河川事務所 11 名
アークコーポレーション株式会社 10 名
- 場 所：十勝川右岸 相生中島地区上流部
- 活動支援内容 1：樹林化抑制調査（対象：ヤナギ）
- 活動支援内容 2：魚類調査



活動前の集合写真

【調査箇所】





帯広河川事務所長による開会挨拶



帯広河川事務所計画係長からの概要説明



開発局で働く農業高校 OB から仕事仕事の説明



説明を聞く生徒達



調査方法の説明風景



各班のファシリテーター紹介



安全対策について説明

活動支援内容 1：樹林化抑制調査

樹林化の抑制調査は、(1) 法面のヤナギ剪定処理調査と(2) 土砂州の樹林化抑制調査を平成29年度から行っています。

(1) 法面のヤナギ剪定処理調査

調査の方法は、湿地下流右岸の法面に生育しているヤナギの群落で、1m×1mの区画内すべてのヤナギを地面近くで剪定処理を行い、この処理を3年間続けて、樹林化を抑制できるかどうか、確認します。

今年度の1回目(夏期)の調査ではヤナギの計測作業を行い、秋期に剪定作業を行います。



ヤナギ根元から剪定処理区画



剪定処理を行っていない区画



樹高を計測している風景

ヤナギ剪定を根元から処理した区画では数本新たなヤナギが発生していました。樹高は1m未満程度のものです。

(2) 土砂州の樹林化抑制調査

平成 28 年の出水によって出来た土砂州において、大量に発生しているヤナギを対象に 4 つの調査方法で抑制効果を調査します。調査方法は、1. 種まき+放置区、2. 種まき+刈り取り区、3. 種まきなし+刈り取り区、4. 対象区（未処理）。

調査は平成 29 年度に 2 回行い今年で 3 回目の調査となりますが、今回はヤナギの生育状況（平均樹高・平均径、本数）を計測し、秋の調査で刈り取り作業を行う予定です。



作業方法説明の様子



ヤナギの大量発生状況



ヤナギの本数を数えている様子



ヤナギの樹高を計測している様子

ヤナギ生育調査結果（H30.7.31）

	班	調査区	本数		H30/H29 比	
			H29	H30		
堆積部	1班	播種+放置	川側	283	172	60.8%
			陸側	432	250	57.9%
	2班	播種・処理	川側	595	923	155.1%
			陸側	435	209	48.0%
	3班	播種なし+処理	川側	580	368	63.4%
			陸側	570	290	50.9%
4班	対照区	川側	476	304	63.9%	
		陸側	510	287	56.3%	
		平均	485	350	69.5%	
法面	5班	処理区	上部	26	13	50.0%
			下部	8	5	62.5%
		対照区	上部	10	16	160.0%
			下部	6	7	116.7%
			平均	13	10	82.0%

活動支援内容2：魚類調査

今回の魚類調査は、平成 29 年 10 月と平成 30 年 5 月に行った湿地上流部の掘削後初めての調査です。

水域環境は昨年同様河床に泥が堆砂しており、処により足元が土砂に埋まる様な状況のため、昨年とは異なる箇所となりましたが以下の 4 つの水域環境で調査を行いました。調査箇所は、1.中央部浅瀬部、2.中央深み部、3.岸際部、4.狭窄水域部。

調査は、仕切り網で調査区を作り、タモ網で追い込みにより魚類を捕獲した後、魚類の種類、捕獲数から湿地環境における魚類全体数等を推定していきます。また、魚のエサとなるプランクトンの種類把握のための調査も行いました。



調査前の説明の様子



タモ網で魚を捕獲する様子 (1)



タモ網で魚を捕獲する様子 (2)



タモ網で魚を捕獲する様子 (3)



魚類調査は池全体における魚体数を推定するため、調査区域で魚が捕れなくなるまで捕獲作業を行いました。



捕獲した魚を種類別に分けている様子



狭窄水域で捕獲された魚類



魚体の計測風景



捕獲した魚の重量を計測する風景



捕獲したイバラトミヨ



捕獲したイトヨ



捕獲したジュズカケハゼ



捕獲したウグイ属



捕獲したスナヤツメ



捕獲したフクドジョウ

次のような魚類調査結果（実数）になりました。

魚類調査結果（H30.7.31）

魚種	個体数	割合
ジュズカケハゼ	1193	58.3%
イトヨ	576	28.2%
フクドジョウ	134	6.5%
トミヨ属の一種	124	6.1%
イバラトミヨ	10	0.5%
ウグイ	8	0.4%
スナヤツメ	1	0.0%
合計	2046	100.0%